

カホアルペ講演会

古代日本の真実：前方後円墳と勾玉に隠された秘密

失われた王国：邪馬台国=田川（鷹羽國）説

- 邪馬台国の真の所在地は九州の「田川」である
古文書の分析から、邪馬台国（大和国）は近畿ではなく、福岡県の田川地域、すなわち「鷹羽國」にあったと結論付けている。



- 日本最大級の「卑弥呼の墓」を発見
福岡県糸島市にある全長450mの前方後円墳が卑弥呼の墓であり、これは日本で2番目の大きさを持つ。
- 大和王朝は田川の地で始まった
神武天皇がこの地を征服し、西暦119年に大和王朝を建国。その後、倭国大乱を経て西暦200年に卑弥呼が共立されたという年代を算出している。



再生のシンボル：前方後円墳の正体

- 前方後円墳は「罌穴」の形ではない
「前方後円墳」という名称は後世の考古学者が付けたものであり、古代人の意図を反映したものではない。
- その正体は、再生の象徴である「鳳」
自ら再生するために羽を折り、羽を抜くという重くの儀に基づき、鳳の形は「再生中の鳳」を象徴している。これは王の魂の転生を願う意図の表れである。
- 本来の名は「照風陵墓（くまたかりょうぼ）」
この墓は、亡くなった王の魂が還りによって天に還られ、再びこの世に転生することを祈るための壮大な葬送儀式の一環であった。

生命のお守り：勾玉の秘密

- 勾玉は単なる装飾品ではない
その独特な形状には、古代人の生命観に込められた深い意味が込められている。
- その形は「鮭の稚魚」を模している
勾玉は、生まれたばかりの鮭の稚魚をかたどったものであり、特に卵（魚子）を強調した子持ち勾玉も存在する。
- 縄文時代から続く「蘇り」のお守り
毎年産卵のために川を遡上する鮭は、死と再生の象徴。「蘇」という漢字の「魚」が含まれるように、勾玉は生命の復活を願う強力なお守りだった。

日時：2026年2月28日（土）

受付 10:00

10:30~11:30 司会：母里聖徳（鉄鋼彫刻アーティスト）

第1部 青木宣人「鮭神社と森づくり」

11:45~12:45 昼食会

13:00~14:30

第2部 福永晋三「前方後円墳の正体と勾玉の起源」

15:00 各自で鮭神社に移動 16:00 解散

会場：カホアルペ 福岡県嘉麻市馬見587

TEL 0948-57-3511

会費：3500円（ランチ代込み）※お申し込みは上記まで

主催 カホアルペ 後援 嘉麻市 共催 嘉麻市観光まちづくり協会・
徳積財団・神功皇后紀を読む会・スリーピーカフェnico

前方後円墳の正体と勾玉の起源